

学校の図書館は、楽しいところだよ

▼町内の保育所・小中学校に「学校図書館司書」を配置しています

町では、学校図書館の活用を進めるため、平成23年度から「学校図書館司書」を配置しています。1年が経過し、学校では図書館を訪れる児童生徒が増え、たくさんの方に親しむようになったなど、多くの効果が現れています。

学校図書館司書の配置で図書館が変わった

登校すると、子どもたちは真っ先に学校図書館を訪れて本を借りて読んだり、学校図書館司書とおしゃべりを楽しみます。

町では平成23年度から、町内の保育所と小中学校に「学校図書館司書」を配置し、図書館の積極的な活用を進めています。その業務は、町図書館と連携し、新刊を充実させるなどの環境整備、子どもたちへの本の紹介、読み聞かせなど本に親しむ機会の提供、教員が授業で活用する資料の提供などです。

これまでは、司書教諭と学校支援員が兼務で学校図書館の整理や貸し出しなどを担っ



子どもたちとふれあう細田さん

ており、そこに常駐することができていませんでした。現在は学校図書館司書が常駐することにより、子どもたちや教員が要望する本のほか、町図書館の本などがスムーズに学校へ入るようになり、授業や休憩時間に学校図書館の利用が増えています。

学校図書館をみんなが集える場に

学校図書館司書として活躍しているのが、瀧田愛香さん（根雨）と細田久美子さん（黒坂）。瀧田さんは、日野中学校とひのっこ保育所を、細田さんは、根雨小学校と黒坂小

学校を担当しています。瀧田さんは「日野中学校、ひのっこ保育所ともに、古い本や傷んでいる本が多く、生徒・子どもが手に取りにくいかなあと印象でした」と、初めて学校図書館司書として勤務したときの様子を話しました。細田さんも「夏休みに一斉に整理しました。量が多く大変でした」と苦労をにじませます。

この1年、学校図書館は、子どもたちが集まるにぎやかな場所へと変わりました。まず、手作りの『図書館だより』を月1回配布するようになりました。手書きやパソコンを使った個性あふれるもので、新刊やお勧めの本の紹介、図書委員の活動内容、催しなど

ほそだくみこ 細田久美子さん

学校図書館を楽しいと思ってもらえる場所に

町図書館のおはなし会が好きで、図書館司書として働くのが夢でした。学校図書館司書として、先生や子どもたちとしっかりコミュニケーションが取れるよう頑張ります。私のお勧めの本は『大盛りワックス虫ボトル(魚住直子著)』です。適当に生活していた若者が、本気で物事を成し遂げ人間として成長するストーリーで、笑いもあるので読みやすいですよ。

(左が瀧田さん、右が細田さん)





黒坂小学校司書教諭
木下初美さん

本を好きになる 子どもが増えました

学校図書館司書が常駐するようになって、本を読む子どもが増えました。色々な本を紹介してもらって喜んでいきます。図書館は子どもにとって憩いの場です。授業に使う資料も専門的な視点で集めてもらえるので、頼もしい存在ですね。



黒坂小学校司書教諭
西村幸重さん

図書館へ行くことが 楽しみにになりました

古い本が棚に並び、暗い雰囲気だった学校図書館が、新しい本や季節の展示などで明るく生まれ変わりました。子どもたちも図書館に行くことが楽しみになったようです。今後は学校図書館司書と連携して授業を行えたらと考えています。



日野中学校司書教諭
国頭昭寿さん

生徒と教員にとって とても大きな力です

教員では図書館開館時間に限界がありました。今は朝や昼、放課後に図書館が開き、読書をする生徒が増えています。貸出図書数が大幅に増加したんですよ。必要なときに必要な本・資料が揃い、生徒や教員の大きな力となっています。

「何冊まで借りてもいいですか」と声をかけ、引っ張りだこになっているそうです。

盛りだくさんの内容です。また、たくさんの本を読んだ人を表彰するなど、子どもたちの読書意欲を高めています。細田さんは「毎日図書館に来てくれる子もいます。本を借りにくるだけでなく、おしゃべりや折り紙をする子もいます」と笑顔。瀧田さんも「生徒から『図書館は楽しい』『図書館好き』と聞くようになりまして。うれしい」とほほ笑みます。

必要とされる 学校図書館司書に

2人は今後の課題を持っています。中学校・保育所担当の瀧田さんは「昨年度、中学校では整理など環境整備が主になってしまったので、今後



生徒と一緒に本を整理する瀧田さん

は授業の学習支援で資料などを提供できるようにしたいと考えています。保育所では、年齢・成長に合った本や行事に関連した本を準備し保育に役立ててもらえたらと思っています。また、町図書館と連携して親子貸出も続けていけたらいいなと思っています」と話

し、小学校担当の細田さんは「授業中に学習資料を探すなど急な対応が多いので、今後は先生と連携し、事前に良い資料が準備できるようにしたいです」と、2人は子どもたち、教員から必要とされる学校図書館司書を目指しています。

お勧めの本と一緒にパチリ！



もっと、必要とされる図書館司書として 瀧田愛香さん

図書館司書に関心がありました。

教育現場は、知らないことばかりで大変ですが、成長に携わることができ、うれしいです。必要とされるよう、知識を身に付けて頑張ります。私のお勧めの本は『ウェズレーの国 (ポール・フライシュマン著)』です。伝えたいことがしっかりしていて、個性を大切にしている絵本です。じんわり温かくなる感じが好きです。